

国際原子力人材育成事業

Human Resource Development International atomic energy

Ten years have passed since the Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant accident. In the future, human resource development for radioactive waste disposal including decontamination and removal will be important. Despite, there are few students who want to work for a nuclear related company. In this project, we will develop human resources from an international perspective for students. And we will work to deepen their understanding of nuclear related companies. This project will be implemented in collaboration with the National College of Technology Headquarters, Hokkaido University, and Nagaoka University of Technology. Develop students' abilities to collaborate with the general public on social issues in the nuclear field, learn independently, think, and understand the significance of discussing with others.

1. 概要

福島第一原子力発電所事故の前までは主に高専生だけを対象としたフロントエンド事業に関する原子力人材育成を実施してきましたが、事故から10年が経過したこれからは除染除去物を含めた放射性廃棄物処理処分などのバックエンド事業に関する人材育成が重要になってくると考えています。さらに、原子力分野へ就職する学生の多くは電力会社や研究所を志望し、幅広い原子力分野を支えている原子力関連企業へ就職を志望する学生は数少ない状況です。そこで、本事業では高専機構や、北海道大学、長岡技術科学大学と連携して、国際的な視野を持って放射性廃棄物処理処分や原子力、放射線について科学的・技術的な面から議論できる人材を育成し、また、原子力関連企業への理解を深める取組を行います。

2. 主な事業内容

放射性廃棄物処理処分や国際的なエネルギー問題解決に貢献できる人材、技術的専門性を要する社会課題の解決に寄与する実践的人材を育成するために以下の取組を行います。

- ① 原子力や放射線に関する授業のe-learning化
- ② 原子力関連施設見学
- ③ 学生による国際会議を通じた福島の現状発信
- ④ 電力会社での実習
- ⑤ 討論型世論調査を参考にした原子力分野における社会課題を学び、考え、話し合う場の実施

① 学び、考え、話し合う場の設置

討論型世論調査(Deliberative Poll : DP)を参考にした原子力分野における社会課題を学び、考え、話し合う場を、全国の高専および大学で実施する

② 課題の現場における取組の調査

原子力分野における社会課題に対し、組織や地域でどのような取組がなされているのかや実際に行われている取組の効果等について、現場の担当者から直接伺い、社会課題に対する知識を深化させると同時に、グッドプラクティス/バッドプラクティスを調査する

③ 学び、考え、話し合う場の設計

①および②の参加者から希望者を募り、①で扱っていない原子力分野における社会課題を選定し、高専生・大学生が、「DPを参考にした原子力分野における社会課題を、学び、考え、話し合う場」を設計する

④ 学び、考え、話し合う場の実施

技術的専門性を要する原子力分野における社会課題を、技術的専門性を持たない一般の人々と協働し、自ら主体的に学び、考え、他者と話し合うことを通じて解決できる能力をもつ人材の輩出



討論型世論調査を参考にした人材育成の概要